

## 和歌山病院での実習を終えて



芦原 晨

まず初めに、私達の臨床実習に協力して下さった和歌山病院のスタッフの皆様にお礼申し上げます。2日間という短い期間でしたが、普段の臨床実習とは全く異なる視点を持って、実習に望むことができました。貴重な機会を提供して頂き、有難う御座いました。

障害者施設実習の際にも和歌山病院にお世話になっていたため、私にとっては、今回の実習は2度目の和歌山病院訪問となりました。今回の実習で、一番インパクトに残ったのは、やはり南方院長のセミナーでした。教科書に載っている知識を、その原理から分かりやすく解説してもらうことで、今までの病院実習で分からなかった疑問が解けました。また、自分達の頭で考える時間を設けて頂いたことで、考える習慣を身につけることが大事であるという事が、身に染みてよく分かります。「病変を知るためには、まず正常を理解することが重要である」という考えの下、レントゲンの正常画像を教えて頂いたのは、私の財産になりました。常に考える姿勢を持つことは、正常を理解することに役立つだけでなく、異常を理解することにも当然役立つと思うので、今後は知識を丸暗記ではなく、理解することを忘れずに勉学に励もうと思います。考え続けることが「良い医者」への第一歩だと信じて、精進して参ります。

また、南方先生に夕食に連れて行って頂き、ユーモアに溢れたお話を聞いたのは、非常に楽しかったです。先生の博識ぶりには非常に驚きました。医師には知識だけでなく、人間力も必要だと感じた瞬間でした。私も、様々な事に興味を持ち、医師としては勿論、人としての見聞を広げていきたいと思っています。